

2026年3月12日

最近の長野県経済の動向 (月例調査)

概要

全国景気※	米国の通商政策の影響が残るものの、緩やかに回復している
長野県内景気	生産面など一部で弱さがみられる
12月の生産動向	生産は減少している
1月の個人消費	乗用車新車販売台数は2カ月ぶりに前年を下回る
1月の公共投資	公共工事保証請負額は2カ月ぶりに前年を下回る
1月の住宅投資	新設住宅着工戸数は2カ月連続で前年を下回る
1月の雇用情勢	有効求人倍率は横ばいで推移

今後は、米国の通商政策や、中東情勢の悪化に伴う資源価格上昇の影響を注視する必要がある。

※内閣府「月例経済報告(2026年2月)」より

照会先

一般財団法人 長野経済研究所 調査部

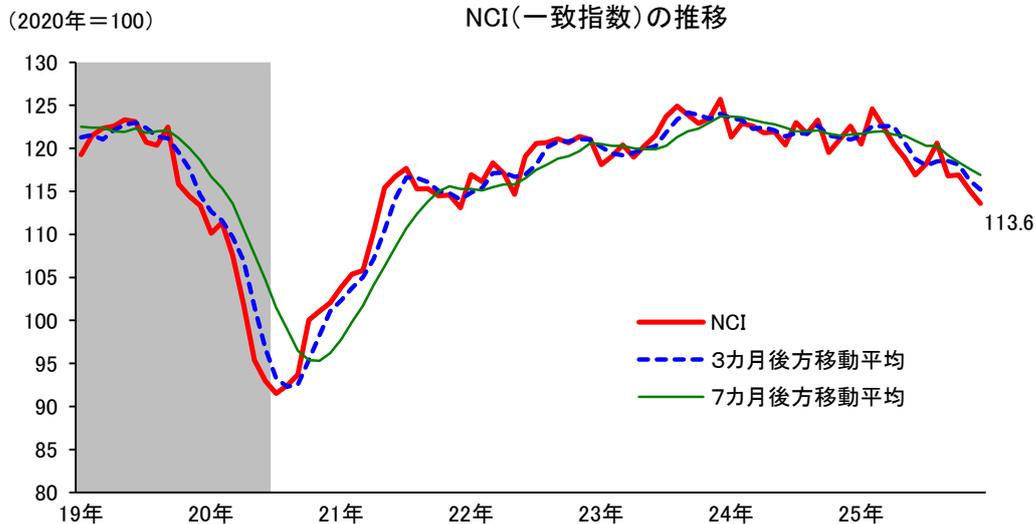
担当 桑井、須田

電話 026-224-0501

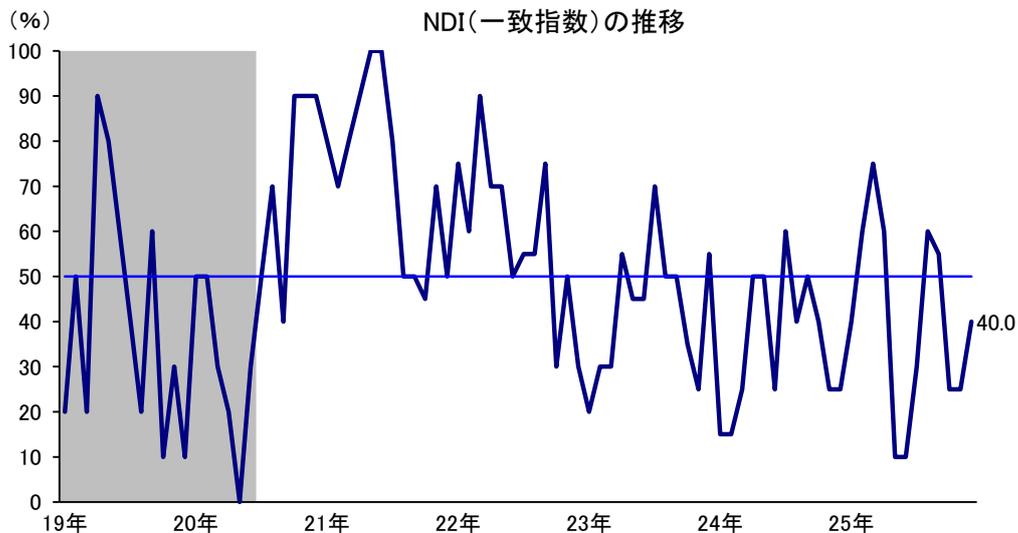


景気動向指数

- ・12月のNCI(一致指数)は、113.6と前月と比較し△1.5ポイントとなった。3カ月後方移動平均は、△1.1と3カ月連続で低下した。7カ月後方移動平均は、同△0.7と4カ月連続で低下した。NCI(一致指数)は、悪化を示している。
- ・NDI(一致指数)は、40.0%となり、景気判断の分かれ目である50.0%を3カ月連続で下回った。



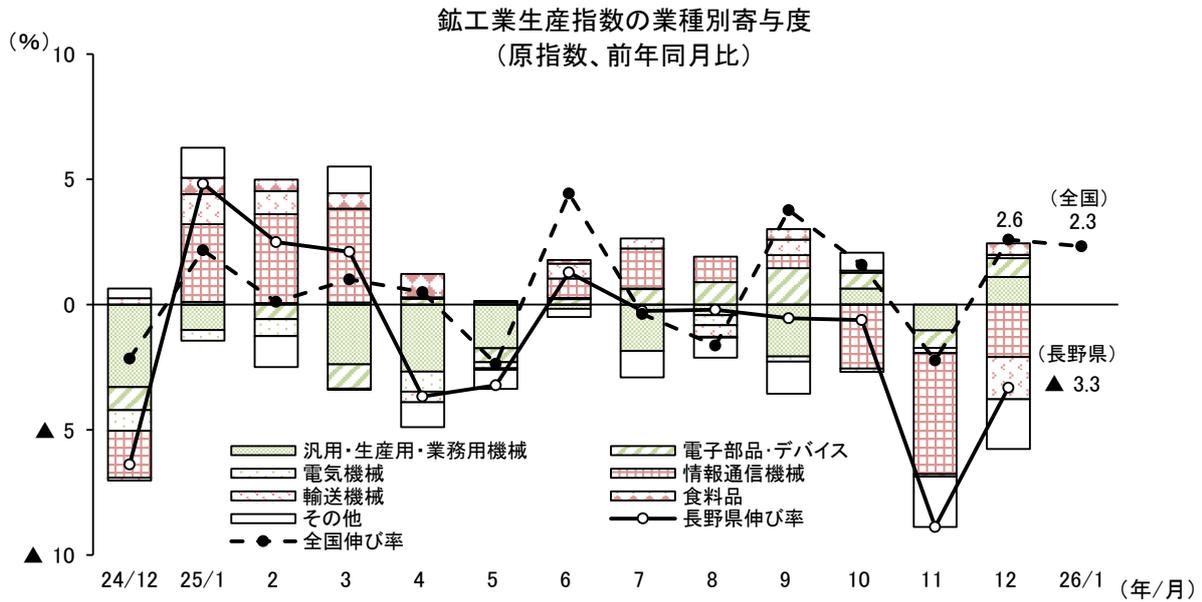
(資料)当研究所「長野県景気動向指数」
 (注) 1.NCIは長野県の景気変動の大きさやテンポ(量感)を示す
 2.シャド一部分は長野県の景気後退期を示す



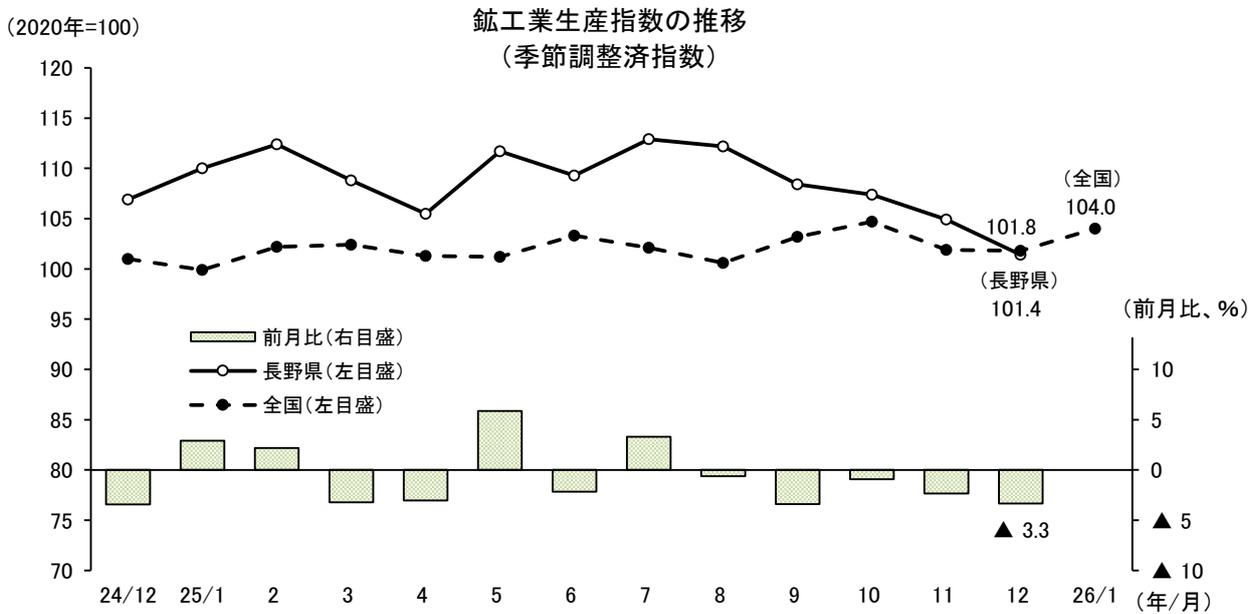
(資料)当研究所「長野県景気動向指数」
 (注) 1.NDIは長野県の景気の方角、波及度合いを示す
 2.シャド一部分は長野県の景気後退期を示す

生産は減少している

- ・12月の鉱工業生産指数は、原指数が前年同月比△3.3%、季節調整済指数が前月比△3.3%となった。
- ・季節調整済指数は5カ月連続で前月を下回ったほか、原指数も6カ月連続で前年を下回った。中国景気の低迷やIT関連需要が低調に推移する中、車載関連向けでも半導体不足の影響などがみられることから、生産は減少している。
- ・主要業種別にみると、「汎用・生産用・業務用機械」「電子部品・デバイス」などが前年を上回ったものの、「情報通信機械」「輸送機械」などが前年を下回った。



(資料)長野県企画振興部総合政策課統計室「長野県鉱工業指数」、経済産業省「鉱工業生産指数」
(注)全国伸び率:26年1月分は速報値

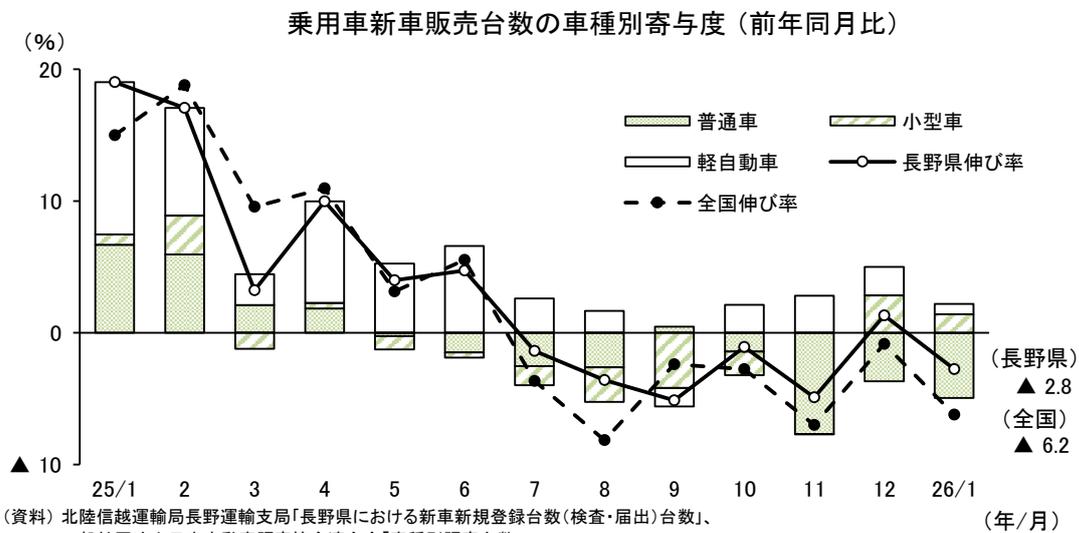
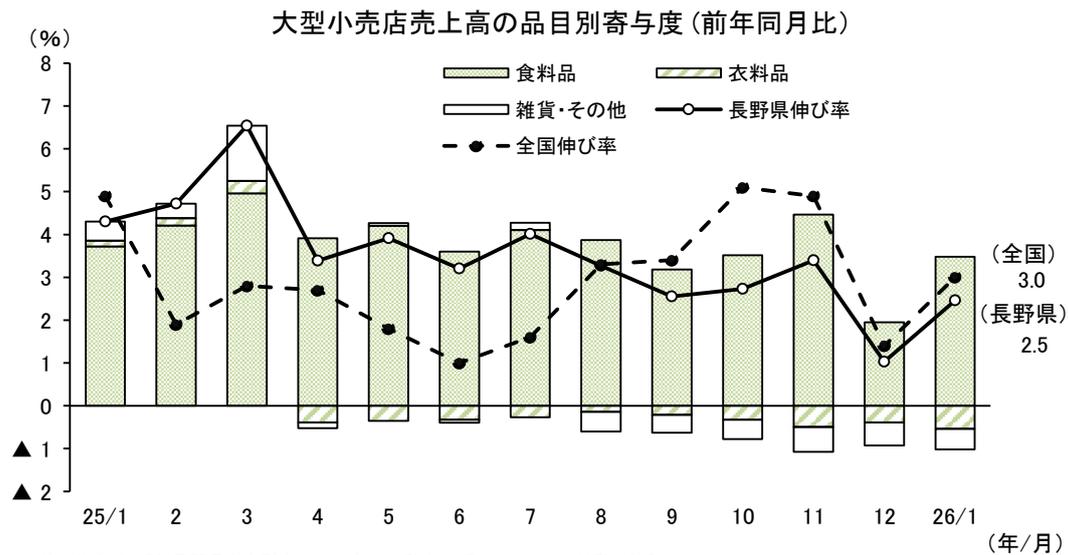


(資料)長野県企画振興部総合政策課統計室「長野県鉱工業指数」、経済産業省「鉱工業生産指数」
(注)全国:26年1月分は速報値

個人消費

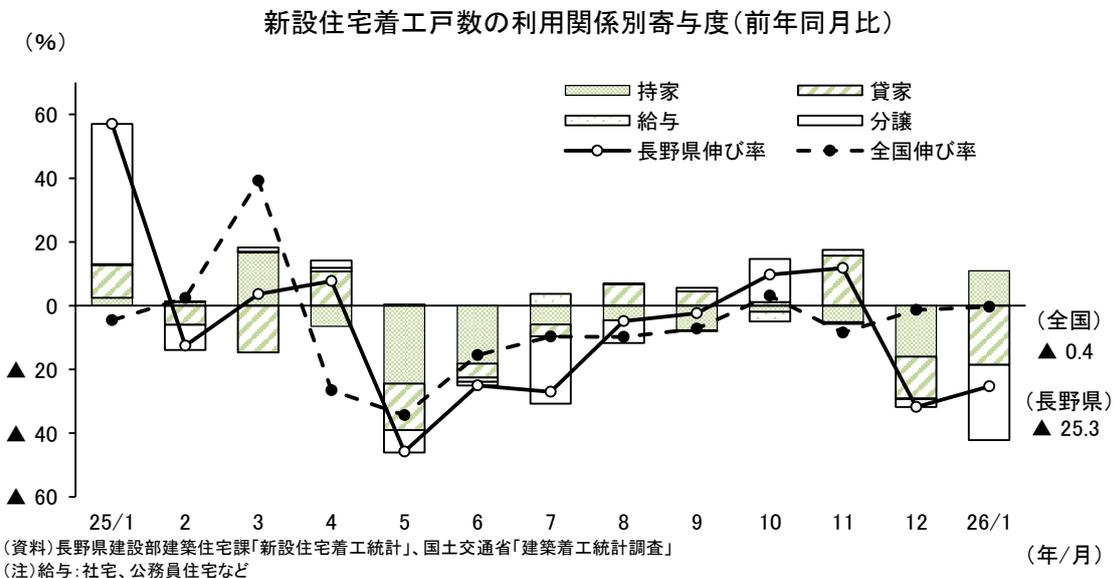
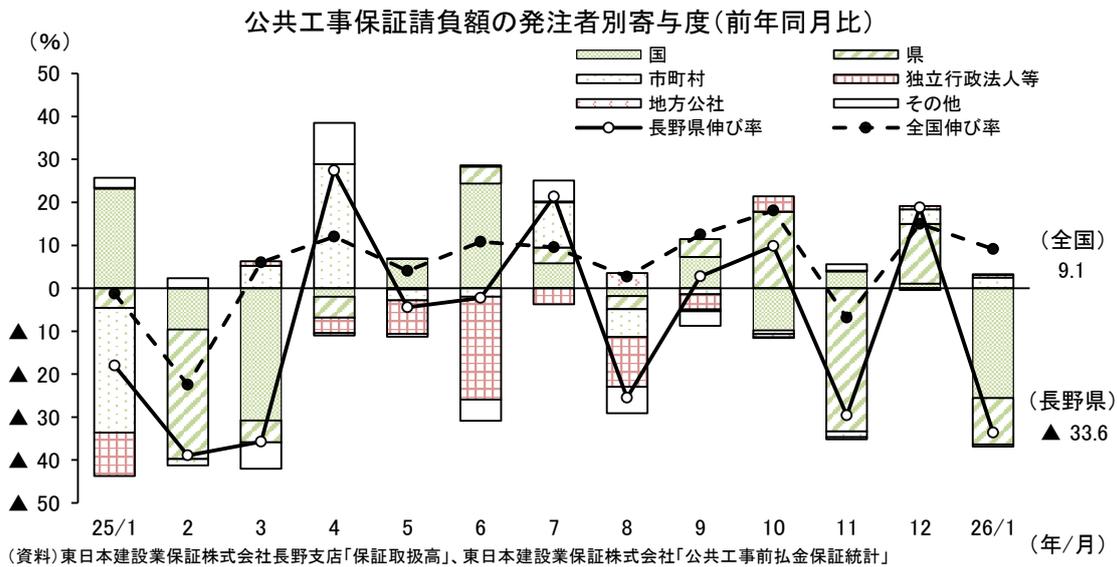
乗用車新車販売台数は2カ月ぶりに前年を下回る

- 1月の大型小売店売上高は、前年同月比+2.5%（売場面積調整前）となり、52カ月連続で前年を上回った。食料品は、コメや調味料等の販売価格の上昇などが続き、同+4.3%となった。衣料品は、物価上昇により節約志向が高まったことに加えて、気温が平年を上回ったことで、コートやダウンジャケットなどの重衣料で買い控えの動きが続き、同△10.3%となった。雑貨・その他、暖房器具などの家電製品が伸び悩み、同△3.7%となった。
- 1月の乗用車新車販売台数は、前年同月比△2.8%と2カ月ぶりに前年を下回った。車種別にみると、小型車は前年同月比+8.0%と2カ月連続で、軽自動車は同+1.8%と4カ月連続でそれぞれ前年を上回ったものの、普通車は同△12.8%と4カ月連続で前年を下回った。



公共工事保証請負額は2カ月ぶりに前年を下回る

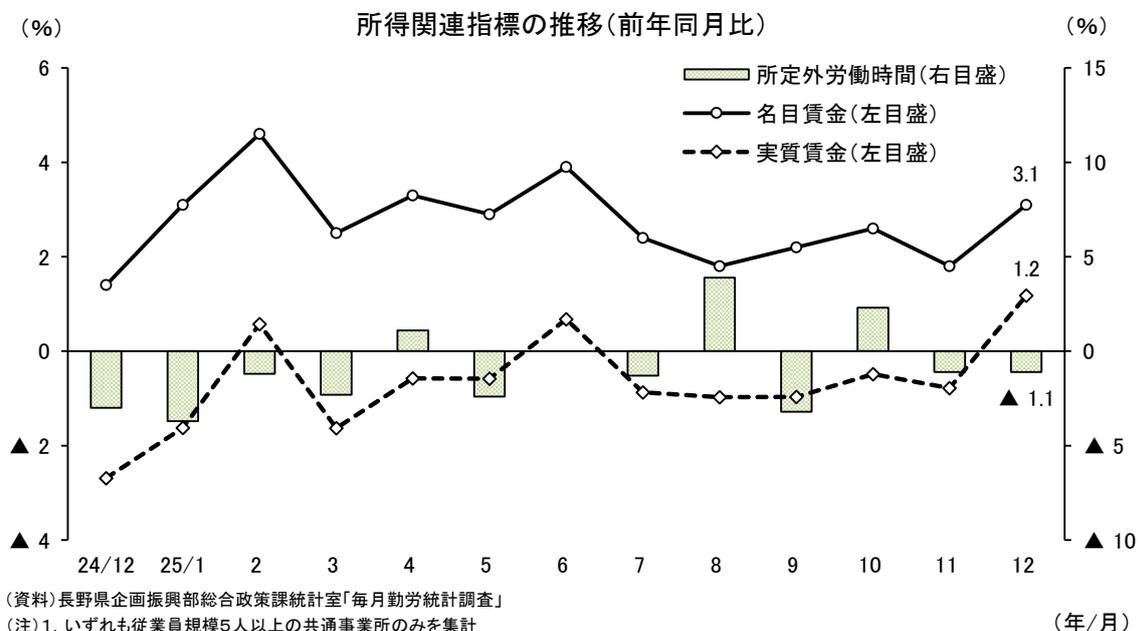
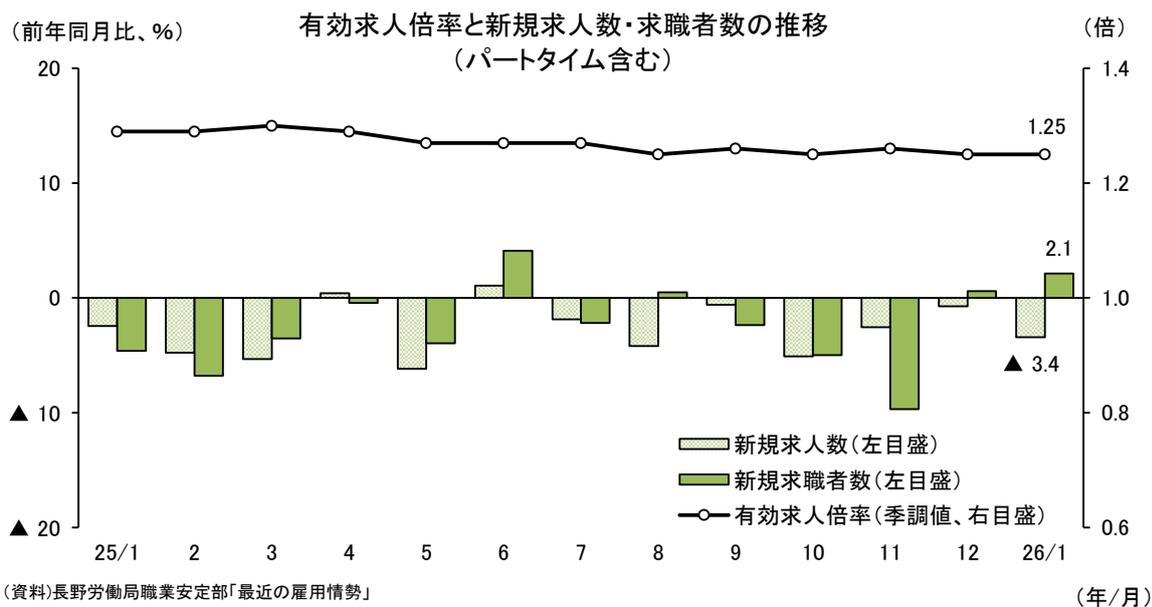
- 1月の公共工事保証請負額は、前年同月比△33.6%の60億8,200万円となり、2カ月ぶりに前年を下回った。発注者別にみると、市町村が同+8.2%、その他が同+4.4%と増加したものの、国が同△78.0%、県が同△32.7%と減少した。
- 1月の新設住宅着工戸数は、前年同月比△25.3%の763戸と2カ月連続で前年を下回った。利用関係別にみると、持家が同+30.5%と増加したものの、貸家が同△64.4%、分譲が同△50.6%と減少した。



雇用

有効求人倍率は横ばいで推移

- ・1月の有効求人倍率は、前月と変わらず1.25倍となった。
- ・新規求人数(全数)は前年同月比△3.4%となり、7カ月連続で前年を下回った。このうち常用は同△1.0%、パートは同△5.2%となった。主要産業別では製造業が同+11.0%、卸売業、小売業が同+7.0%、医療、福祉が同+3.9%となるなど5産業は前年を上回ったが、サービス業が同△20.8%、宿泊業、飲食サービス業が同△25.3%、建設業が同△9.1%となるなど8産業は前年を下回った。
- ・新規求職者数(全数)は、前年同月比+2.1%と2カ月連続で前年を上回った。
- ・12月の名目賃金は前年同月比+3.1%と56カ月連続で前年を上回り、実質賃金は同+1.2%と6カ月ぶりに前年を上回った。所定外労働時間は同△1.1%と2カ月連続で前年を下回った。



県内地域別・近隣都県別有効求人倍率

有効求人倍率は東信を除き前年を下回る

- ・1月の地域別有効求人倍率(全数)は、北信が前年同月比△0.05ポイントの1.29倍、東信が同+0.02ポイントの1.40倍、中信が同△0.11ポイントの1.28倍、南信が同△0.01ポイントの1.29倍となった。
- ・職業安定所別有効求人倍率(全数)は、佐久が1.44倍と最も高く、次いで長野が1.41倍となった。
- ・長野県の有効求人倍率は64カ月連続で全国を上回り、順位は前月から1つ上げ15位となった。

長野県職業安定所別有効求人倍率(実数値)(26年1月)

地域	北 信(1.29) (前年同月比▲0.05)				東 信(1.40) (前年同月比+0.02)		中 信(1.28) (前年同月比▲0.11)			南 信(1.29) (前年同月比▲0.01)		
	長野	篠ノ井	飯山	須坂	上田	佐久	松本	木曾福島	大町	飯田	伊那	諏訪
全 数	1.41	1.10	1.23	1.29	1.37	1.44	1.29	1.22	1.18	1.32	1.31	1.25
前年同月比 (ポイント)	▲ 0.03	▲ 0.12	+ 0.05	▲ 0.02	+ 0.10	▲ 0.04	▲ 0.12	▲ 0.02	▲ 0.10	▲ 0.08	+ 0.06	▲ 0.02
うち常用	1.21	1.06	1.06	1.21	1.25	1.48	1.18	1.21	1.15	1.26	1.18	1.17
前年同月比 (ポイント)	▲ 0.05	▲ 0.13	+ 0.02	+ 0.03	+ 0.06	▲ 0.06	▲ 0.10	▲ 0.06	▲ 0.03	▲ 0.07	+ 0.07	▲ 0.01

(資料)長野労働局職業安定部「最近の雇用情勢」

(注)実数値とは、新規学卒を除きパートタイムを含む季節調整前の原数値

